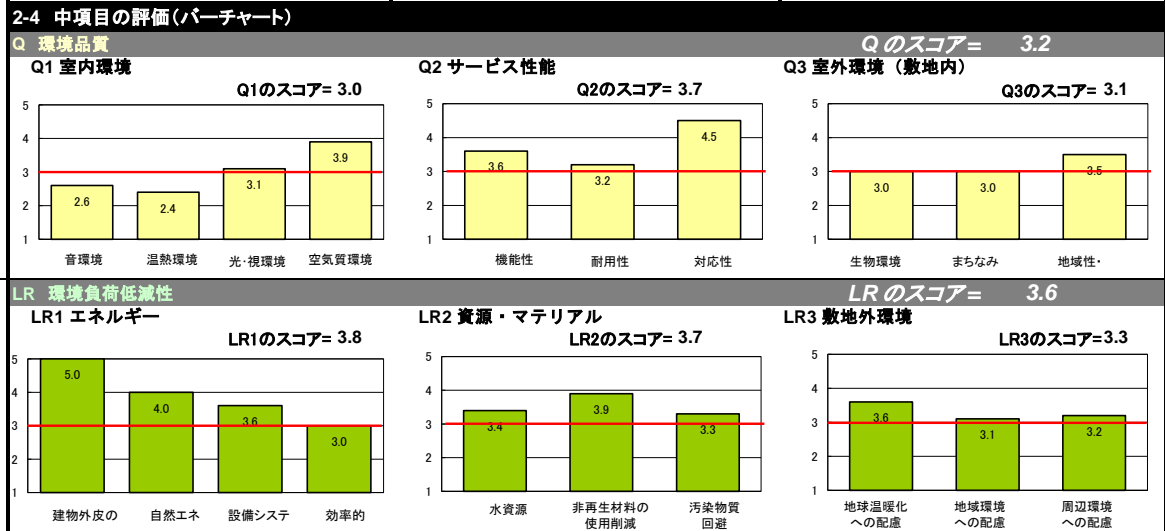
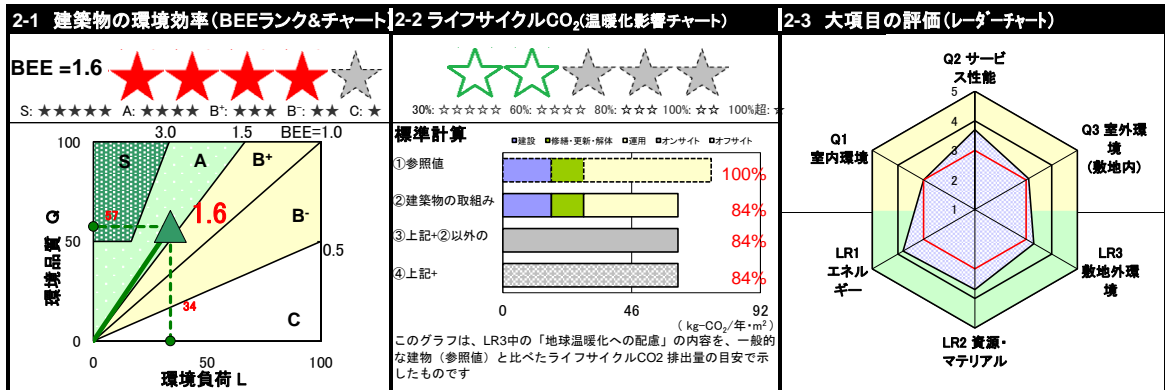


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)アイシン 安城工場(榎前)	階数	地上3階
建設地	愛知県安城市榎前町西林1番1他	構造	S造
用途地域	指定なし・指定なし	平均居住人員	420 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工時期	2024年9月 竣工	評価の実施日	2024年7月18日
敷地面積	138,379 m ²	作成者	高橋 幸
建築面積	22,377 m ²	確認日	2024年7月18日
延床面積	26,303 m ²	確認者	高橋 幸



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>80.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	80.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	80.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">3.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 24px;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
 (株)アイシン 安城工場(榎前)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル			0.1	2.6	0.15	-	-	-
1.2 遮音			3.0	3.0	0.40	-	-	-
1.2.1 開口部遮音性能			0.4	2.2	0.40	-	-	-
1.2.2 界壁遮音性能			-	3.0	0.60	-	-	-
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	1.0	0.40	-	-	-
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-	-
1.3 吸音			-	3.0	0.20	-	-	-
2 温熱環境								
2.1 室温制御			0.3	2.4	0.35	-	-	-
2.1.1 室温			0.5	2.7	0.50	-	-	-
2.1.2 外皮性能		窓U=2.6(W/m ² ・K) 外壁U=0.78(W/m ² ・K) 屋根U=0.465(W/m ² ・K)	3.0	3.0	0.38	-	-	-
2.1.3 ゾーン別制御性			3.0	5.0	0.25	-	-	-
2.2 湿度制御			3.0	1.0	0.38	-	-	-
2.3 空調方式			3.0	3.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境								
3.1 屋光利用			0.2	3.1	0.25	-	-	-
3.1.1 屋光率			0.3	1.8	0.30	-	-	-
3.1.2 方位別開口			3.0	1.0	0.60	-	-	-
3.1.3 屋光利用設備			3.0	3.0	0.40	-	-	-
3.2 グレア対策			0.3	3.0	0.30	-	-	-
3.2.1 屋光制御			5.0	3.0	1.00	-	-	-
3.3 照度			3.0	3.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御		自動照明制御ができる	3.0	5.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境								
4.1 発生源対策			0.2	3.9	0.25	-	-	-
4.1.1 化学汚染物質		建築材料F☆☆☆☆をほぼ全面使用	0.5	4.0	0.50	-	-	-
4.1.2 換気			3.0	4.0	1.00	-	-	-
4.1.2.1 換気量		中央管理方式の空調調和設備が設置されている居室は30m ³ /h人以上	0.3	3.6	0.30	-	-	-
4.1.2.2 自然換気性能			3.0	4.0	0.33	-	-	-
4.1.2.3 取り入れ外気への配慮		空気取り入れ口は周囲の状況を勘案し、6m以上離しての設置	3.0	3.0	0.33	-	-	-
4.1.2.4 空気取り入れ口は周囲の状況を勘案し、6m以上離しての設置			3.0	4.0	0.33	-	-	-
4.3 運用管理			0.2	4.0	0.20	-	-	-
4.3.1 CO ₂ の監視			3.0	3.0	0.50	-	-	-
4.3.2 喫煙の制御		建物内全て禁煙	3.0	5.0	0.50	-	-	-
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ			0.4	3.6	0.40	-	-	-
1.1.1 広さ・収納性			0.4	3.0	0.40	-	-	-
1.1.2 高度情報通信設備対応			3.0	3.0	0.33	-	-	-
1.1.3 バリアフリー計画	独自		3.0	3.0	0.33	-	-	-
1.2 心理性・快適性			0.3	4.0	0.30	-	-	-
1.2.1 広さ感・景観 (天井高)		事務所の天井高2.7m、すべての執務者が屋外の情報を得られる窓を設置	3.0	4.0	0.33	-	-	-
1.2.2 リフレッシュスペース		休憩コーナー76.5m ² >8.2m ² =事務所828.38m ² ×0.01 売店を設けている	3.0	5.0	0.33	-	-	-
1.2.3 内装計画			3.0	3.0	0.33	-	-	-
1.3 維持管理			0.3	4.0	0.30	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計		維持管理に配慮した設計において、標準以上の取り組みをしている	3.0	4.0	0.50	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保		維持管理の確保において、標準以上の取り組みをしている	4.0	5.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振			0.3	3.2	0.31	-	-	-
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)			0.4	3.0	0.48	-	-	-
2.1.2 免震・制震・制振性能			3.0	3.0	0.80	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数			3.0	3.0	0.20	-	-	-
2.2.1 躯体材料の耐用年数			0.3	3.2	0.33	-	-	-
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	耐用年数20年以上	-	3.0	0.23	-	-	-
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			-	3.0	0.23	-	-	-
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔			-	5.0	0.09	-	-	-
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		汚水排水・雑排水・通気 B以上を仕様	-	3.0	0.08	-	-	-
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔			-	5.0	0.15	-	-	-
2.2.7 主要設備機器の更新必要間隔			-	2.0	0.23	-	-	-
2.4 信頼性			0.1	4.0	0.19	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備		地震時の被害が全体機能停止を引き起こさない対策、空調設備の重要度に応じて系統を区分	3.0	4.0	0.20	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備		節水型便器の利用、災害時の汚水(雑排水)の一時的貯留機能の確保等	3.0	4.0	0.20	-	-	-
2.4.3 電気設備	②	非常用発電機・無停電電源設備を備え、地下空間へ電源設備等を設置しない	3.0	4.0	0.20	-	-	-
2.4.4 機械・配管支持方法		耐震クラスA	3.0	4.0	0.20	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備		精密機器の浸水による機能を回避する対策、災害時は被害情報が入手可能、無停電装置が設備	3.0	4.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性				0.2	4.5	0.29	-	-	-	4.5
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			工場3.9m以上 事務所3.7m以上、3.9m未満	-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率 工場=0.031 事務=0.098	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			工場30000N/m ² 、事務所2900N/m ²	3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.7	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性		②	仕上げ材を痛めることなく更新・修繕可能 工場エリアは構造部材以外に仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕が可能 工場エリアは仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕が可能	-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	5.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.39	-	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			空地率が30%以上、中高木の投影面積が30%以上等	-	4.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.68	3.0	5.0	0.21	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			工場側にナイトバージを計画	3.0	4.0	0.11	-	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.74	3.0	3.6	0.48	-	-	-	3.6
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.7
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			節水型便器の利用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.9	0.63	-	-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生骨材盛土:土間下、磁器質タイル:車寄せ、タイルカーペット:床	3.0	5.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ材が分裂可能で解体・改修・更新の際容易に取外し可能	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			ビニル床タイル・シート用接着剤等、1つ以上使用	3.0	4.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率84%	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制		独自	駐車場と駐輪場の利用者の為に評価する取り組み4ポイント以上	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音		独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動		独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制				-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制				-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制				-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインの項目過半を満たす 広告物照明を行っていない	-	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.6
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10
② 資源の有効活用			3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09
Q2-3	対応性・更新性	4.5	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19
③ 敷地内の緑化			3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12
			外構緑化:80.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (株)アイシン 安城工場(榎前)

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 良好な室内環境の確保と、建物の長寿命化を目指す。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上材を採用することにより、室内環境の向上を図る。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 空間の形状・自由度を考慮し、将来の可変性向上を目指す。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地内の植栽条件に合った適切な緑地作りを目指す。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 断熱性能の強化と設備システムの効率化を図る。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 有害物質を含まない材料およびリサイクル材を積極的に採用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に十分な対策をとり、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。